

## ナシ新品種「甘ひびき」の栽培特性について

～早生・大玉・良食味、3拍子揃った注目の新品種「甘ひびき」～

水谷浩孝（西三河農林水産事務所農業改良普及課）

【平成28年2月掲載】

### 【要約】

「甘ひびき」は安城市の猪飼孝志氏が育成し、平成22年3月に品種登録されたニホンナシで、「愛甘水」と「幸水」の中間期に成熟する。果実重は600g程度と大きく、糖度は13～14%で食味は申し分なく、「幸水」より早い時期に収穫できる品種の中では非常に優れている。

樹の姿・特性は「愛甘水」によく似ているが、「愛甘水」より立性で樹冠拡大が遅いことから、やや密に植え付ける方が良い。収穫時期の判断は果皮色により行うが、糖度は完熟付近で急上昇するため、早切りを避け、適期収穫を心掛ける。

### 1 はじめに

「甘ひびき」は安城市の猪飼孝志氏が「愛甘水」の自然交雑実生から育成し、平成22年3月に品種登録された早生のニホンナシである。熟期は「愛甘水」と「幸水」の中間で、育成地安城市での収穫時期は、7月下旬から8月上旬頃となる。果実重は600g程度になり、食味は申し分ない。

平成27年の収穫まではJAあいち中央梨生産部会員のみの栽培であったが、平成27年秋から一般の種苗業者からの苗木供給が始まり、全国での栽培拡大が見込まれる。

「甘ひびき」に関する試験データはほとんどなく、栽培特性は不明な点もあるが、管内での栽培状況から得られた知見を紹介する。



### 2 樹体の特徴

「甘ひびき」の樹勢はやや弱く、「幸水」・「愛甘水」並みである。樹の姿・特性は「愛甘水」によく似ているが、立性で樹冠拡大に時間がかかることから、やや密植栽培にした方が良い。

腋花芽の着生は「幸水」・「愛甘水」程度で、花芽の確保は容易であるが、気象条件等により、着生状況が悪い場合がある。また、短果枝の維持もやや難しいため、長果枝利用を主体とした栽培が適している。

### 3 果実の特徴

#### (1) 収穫時期

平成27年の当地域における収穫時期は、7月27日～8月12日で、「幸水」の7月29日～8月28日よりやや早かった。なお、「幸水」には熟期促進と果実肥大促進を目的としたジベレリンペースト処理を行っているが、「甘ひびき」については、日持ち性が低下するため、部会としてジベレリンペースト処理を行わないことを取り決めている。

「甘ひびき」は完全着色近くで糖度が急上昇する特性がある。このため、果皮色での収穫適期判断は、完全着色果を着色度10とすると、着色度8程度が収穫の目安となる。しかし、平成27年は、7月中旬～8月上旬の高温・多日照により、ニホンナシはほとんどの品種が果肉先熟傾向となった。この時に着色度8で収穫した「甘ひびき」は、収穫後半に過熟が原因とみられる食味不良や果芯部の褐変が発生した。このことから、今後、収穫適期判断の改善が必要である。

#### (2) 果実品質

果実重は、「幸水」より大きく600g程度で大きなものは1kgを超える。糖度は高く、13～14%程度となる。酸味は「幸水」より弱く、ほとんど感じられない。果肉硬度は「幸水」と「愛甘水」の中間程度だが、ゴリゴリとした硬さはなく、みずみずしいシャリシャリ感がある。果汁も多くジューシーなため、食感が良い。

#### 4 栽培上の留意点

「甘ひびき」は前述のとおり樹冠拡大に時間を必要とし、主枝の先端が負けやすいため、主枝先端部にはできる限り発育枝を多く配置する。若木のうちは主枝の肥大を促進するため、芽かきを行わず、主幹から発生する徒長枝は切り取らずに誘引して勢力を抑えることが望ましい。

果実が大きく葉が小さいので、上空から果実が見えやすく、鳥害対策が必要である。なお、予備枝等の新梢を誘引することは、花芽の確保のために通常の栽培でも推奨されるが、上空から見える果実を隠し、鳥害の軽減効果にもつながることから、一石二鳥になると期待している。



写真2 せん定後の若木主枝先端  
(発育枝をできる限り多く残す)